



ミカド電装の情報サイト
ミカドONLINEはこちらから

ミカドONLINE

「雑学・小ネタや
当社の話題を
編集部が
ピックアップ!!」

ミカドアラカルト



お客様に聞きました⑤

～協業組合 県北清掃公社 様～



お客様ご訪問シリーズの5回目は当社代表取締役の沢田秀二と編集部が、宮城県登米市にある 協業組合 県北清掃公社様をお訪ねして、鈴木貞夫理事長と熊谷正保専務理事にお話を伺いました。



迫川のそばに建つ県北清掃公社様 社屋

- 県北清掃公社様は、下水道処理施設や排水処理施設の維持管理などを行い、一般廃棄物(し尿・ごみ)や産業廃棄物の回収・運搬も手掛ける協業組合です。2018年に当社の省エネ診断を受診された後、2019年に国と県の補助を得て空調設備の更新と照明のLED化を実現されました。
- 当社では診断事業のほか、補助金申請のコンサルティングと設備更新工事の管理を担当させていただきました。

協業組合とはどんな組織ですか?

熊谷専務理事 協業組合というのは中小の事業者がそれぞれ営んでいた事業を共同経営するためにつくられた組合です。元々この組合は個人でやっていた登米地域のし尿処理業者が7社集まって昭和45年(1970年)に設立されたものです(現在は4社)。町の水洗化が進むと学校の大きな浄化槽などは個人ではなかなか対応できません。そこで役所のほうから「組合をつくって合理的にやってみたらどうか?」と言われたのがきっかけです。昭和40年代後半からは産業廃棄物の分野に参入し、平成11年(1999年)には下水道処理施設維持管理業登録をして、現在は公共下水道処理施設の維持管理も2か所ほど行っております。

エネルギーの分野でお困りだったことは?

鈴木理事長 困っているというわけではありませんでしたが、照明のことはずっと気になっていました。当組合は2010年にみちのくEMSに加盟して認証も取得しています。清掃事業者としては早いほうだと思いますが、照明のLED化は行っておらず、みちのくEMSの集まりで照明の話題が出るたびに、肩身の狭い思いもありました。蛍光灯はやがてなくなるのがわかってのことですし、何より当組合は生活環境事業者ですから環境負荷の軽減や地球温暖化防止のためにも、いずれはLED化しなくては、と思っていました。

当社のエネルギーマネージメントをどうやって知ったのですか?

鈴木理事長 みちのくEMSのつながりです。みちのくEMSの事務局を担当している環境会議所東北というNPOの山岡講師専務理事から(照明のLED化に関して)「診断を受けてみたら?」という提案をいただき、省エネプラットフォームという関連団体から派遣されてきたのがミカド電装商事の表さん(表伸也。当社:取締役 環境・エネルギー本部長 上席エネルギーコンサルタント)だったんです。

導入にあたっての不安は何でしたか?

熊谷専務理事 不安はね、全くありませんでした。実直な表さんが「大丈夫」と言えば大丈夫な気がしてくるんですから妙な安心感がありますよね(笑)正直言って補助金などの審査は、点や丸がないだけでもハネられるイメージがあって、自分達だけではとても無理だし、そんなところに労力をかけるくらいなら補助金なしでLED化したほうが楽なのでは?と思ったりしました。ですが、診断後は月々の電気量やエコライフノートをミカドさんに送って、色々と言や指導をもらったので本当に助かりました。実は表さんに月々の電気量や環境負荷への数値がぐーっと減りますよと言われて、(設備導入への)気持ちが動きましたね。ぐーっとですよ、ぐーっと。ちょっとじゃないですよ(笑)



左より当社代表の沢田、県北清掃公社/熊谷専務理事、鈴木理事長

今後ミカド電装商事に期待することは?

熊谷専務理事 エネルギーマネージメントは自分達で決めて自分達で実践するのがベストですが、私達は専門家ではないので難しいことはわからないし、最初のうちは自分達では何も決められないんです。だから事業規模や業種に合わせて、こうやったほうがいいですよ、という助言はやはりほしいですね。そして今後もメルマガやこういったもの(本誌)で情報発信の継続もお願いします。

(編集部) 鈴木理事長や熊谷専務理事からは昔の地域事情や過去のエピソードなどを伺い、ユーモアたっぷりのお話しぶりに何度も笑いが起こる取材でした。最後にいただいた本誌へのコメントも励みになりました。このたびはどうもありがとうございました。

単位の歴史

ヘクトパスカル～平成4年に切替わった3代目の大気圧単位～

大気圧の単位は1992年(平成4年)にヘクトパスカルへ

台風の気圧を表す単位はヘクトパスカルですが、昭和世代ならmbar(ミリバール)という単位も記憶に残っていると思います。気圧の単位がミリバールからヘクトパスカルに変わったのは1992年(平成4年)12月1日からです。きっかけは同年5月に行われた計量法の全面改正で、それを機に国際単位のヘクトパスカルに統一することになりました。ミリやキロのように通常は千単位でくられる接頭語がキロではなくヘクト(ヘクタールと同じ100倍の意)になったのは、気象関係者が要望したからだそうです。実はヘクトパスカル=ミリバールなので単位が変わっても数字は変わりません。ヘクトのほうが便利だったんですね。



ブレーズ・パスカル
(1623～1662、フランス)

パスカルの功績をたたえて1971年に国際制定

ヘクトパスカルのパスカルは「人間は考える葦である」といったあのパスカル(1623～1662、フランス)です。人の名前から名づけられているのでPaのPは大文字です。パスカルは流体における圧力の伝わり方を発見し「パスカルの原理」は現在の化学や物理の基礎となりました。そこでパスカルの功績をたたえ、1971年に国際単位系で「Pa(パスカル)」という圧力の単位が正式に採用されたのです。パスカルは幼いころから驚異的な才能を持っていた早熟の天才ですが、体が弱く39歳で亡くなりました。標高によって水銀柱の高さが変わることを確かめたのも、実際に山に登って実験をしたのは、体が弱く登山できないパスカルに依頼された義兄だったとか。数学者であり物理学者であり、哲学者で神学者でもあったパスカルは短い生涯の中で多くの科学的な業績と著書を残しました。

WHAT NOW ミカド!!

社長がアスリートとしてTV出演!

社長の沢田秀二が3月にアスリートとしてTV出演をしました!番組は3月21日に放送された東北放送「サタデーウォッチン」のクロダッシュのコーナーです。クロダッシュは同局の黒田直樹アナウンサーがスポーツに関する話題を紹介するコーナーですが、当社の社長は昨年、トライアスロンの年代別日本チャンピオンとなり、スイスのローザンヌで開催されたITU世界エイジグループ・トライアスロン選手権に日本代表として出場したため取材を受けたものです。当社にもテレビ局の取材クルーが来社して、社員3名が短いインタビューに応じました!社内の取材の様子はこちらをご覧ください。

▶<https://www.mikado-d.co.jp/m-online/post-3950>

そしてスタッフが自宅でスマホ撮影した番組の動画はこちらです



ミカド電装社員が語る「ただいま私のお気に入り」

セブンの塩揚げ餅

お気に入りは特にありませんが、最近ではセブンイレブンの「塩揚げ餅」を買いました。たまたま目に付いたからですが、不味くはなかったですよ。また買うかどうかはわかりませんが、国産米をサクッと食感よく揚げたということなので、悪くはないんじゃないでしょうか。



エスさん(男性/工務部)

目玉焼きは半熟派です

目玉焼きは「固焼き派」と「半熟派」がありますが、自分は「半熟派」です。黄身を箸で押しつぶれるくらいがいいですね。目玉焼きにかけるのは牡蠣しょう油です。ないときは味の素+しょう油。自宅の目玉焼きは毎回半熟というわけでもないのですが、たまには自分でもつくります。



Fさん(男性/工務部)

カド電装 マイヒストリー

History with Mikado Denso

①入社までの私の歩み

ミカド電装商事株式会社
相談役 阿部義勝
(インタビュー ミカドONLINE編集部)

ミカド電装商事は今の社名になってからもうすぐ60周年を迎えます。今回からの新シリーズでは昭和48年に入社して以来50年近く業務に携わり、長い間当社の歴史を見てきた阿部義勝相談役にご登場いただき、ミカド電装商事の歩みや自身の思い出などを語っていただきます。

高校を卒業して入社したのはグループ会社の東京工場でした

編集部 阿部相談役は50年近く当社の業務に携わり、長い間ミカド電装商事の歴史を見て来られたと思うのですが、こちらには新卒で入社されたのですか？

阿部 いいえ。私が高校を卒業して入社したのは当社と同じ創業者(沢田万三)を持つミカド電機工業株式会社(仙台市若林区)の東京工場です。就職したのは東京オリンピックの年で、昭和39年(1964年)のことでした。当時は新幹線もなかったので夜行列車に乗って移動しました。

今はもうなくなってしまうんですが、当時は東京の大田区西六郷にミカド電機工業株式会社が会社の別部門として立ち上げた工場がありました。そこでは、直流電源装

たが、私が所属していたのは技術部で、製品の性能チェックなど、できたものを検査したり試験したりする仕事に携わっていました。

ですが東京工場を閉めることになったため、私は都内で別な会社に入社しました。

転職先の電源部門がなくなり電子ジャーの担当に

編集部 そういえば以前、炊飯器を担当していたと伺ったことがありますか？

阿部 最初からそうだったわけではなく、始めは電源装置の部門だったんです。

転職した次の会社も電気関係の製造会社でした。航空機のILS(計器着陸装置)用の電源機器製作も手掛けていたので、私はそこに配属されました。

ですがその後すぐに電源部門がなくなりました。

その会社は電気製品の委託製造もおこなっている会社でしたから、部門がなくなつてからは炊飯器の開発部に移り、東芝の電子ジャー炊飯器の品質管理の業務に携わりま

置(48ボルトの通信用)を自社製造して、電力会社に直接納品していたんです。大きな会社に直接納めるなんてすごいな、と、思っていましたよ。



記録を確認しながら思い出を話す阿部相談役

東京の工場ではほかにも信号会社の電源装置や電気機器メーカーの電源装置などを委託製造していましたし、日本電池(現:GSユアサ)の自動車用急速充電器(ガソリンスタンドなどによく置いてあります)などもつくっていました。

工場は50人ぐらい人がいて総務も経理もある、そこその規模でした。

製造は工作部が担当していまし

した。

北海道など寒い所に持って行ったり、暑い所に持って行ったりして、7年ぐらいいたのかな。その次が当社です。

電源装置に関わりたくてミカド電装商事に入社

編集部 なぜ転職されたんですか？

阿部 うーん…：なんだか東京が嫌になって来ちゃったんだね(笑)

実はミカド電機工業株式会社の東京工場で上司だった方が、仙台のほうのミカド電機工業株式会社に移っていたんですよ。

編集部 仙台に戻っていらしたんですね。

阿部 いや、その人は島根の人なので仙台に「戻った」わけではないんですけどね(現在は故郷の島根に「戻っています」)。

それで、その人に連絡して「仙台で働きたい」とお願いしたんです。仙台ではそのときすでにミカド電装商事が日本電池の代理店になっていて、日本電池の直流電源装置を取り扱っていました。

自分は電源装置の出身ですし、そちらのほうが馴染みもあるので、元上司にはミカド電装商事への入社を希望しました。

そして昭和48年にこの会社に入ったのが今の自分のスタート地点ということになります。

私が入社したときは、創業者(沢田万三)がまだ社長を務めていたときで、今の会長(沢田元一郎)のお父さん(沢田澄男)が副社長でした。その1年後に副社長が社長になり、やがて今の会長が社長になり、現在は4人目の社長(沢田秀二)ということになりますね。

編集部 4人の社長の時代を経験されているんですね。次回回は入社してからのお話を伺いたいと思います。今日はありがとうございました。

いつも穏やかな笑顔で話をしてくれる阿部相談役ですが、実はバリバリの営業マン！次回回は入社してから少しずつお客様と信頼関係を築いていったお話を伺います。

(編集部)



阿部義勝 あべよしかつ
ミカド電装商事株式会社 相談役
昭和48年入社 仙台市出身